

ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人

著者名： 東野 圭吾
出版社： 光文社

謎を解くためなら、手段を選ばない。コロナの時代に、とんでもないヒーローがあらわれた!名もなき町。ほとんどの人が訪れたこともなく、訪れようとしてもしない町。けれど、この町は寂れてはいても観光地で、再び客を呼ぶための華々しい計画が進行中だった。多くの住民の期待を集めていた計画はしかし、世界中を襲ったコロナウイルスの蔓延により頓挫。町は望みを絶たれてしまう。そんなタイミングで殺人事件が発生。犯人はもちろん、犯行の流れも謎だらけ。当然だが、警察は、被害者遺族にも関係者にも捜査過程を教えてくれない。いったい、何が起こったのか。

奈落で踊れ

著者名： 月村 了衛
出版社： 朝日新聞出版

1998年ノーパンすき焼きスキャンダル発覚、大蔵省設立以来最大の危機が訪れる。黒幕の大物主計局長、暴力団幹部、総会屋総帥、敏腕政治家らの思惑が入り乱れるなか、“大蔵省始まって以来の変人”霞が関のダークヒーロー・香良洲圭一が現れた!驚愕のラスト、香良洲の決断に読者は震撼する!!前代未聞の官僚ピカレスクロマン——待って下さい、私はこれでも大蔵官僚ですよ。こともあろうにヤクザと内通だなんて……

アンダークラス

著者名： 相場 英雄
出版社： 小学館

秋田県能代市で、老人施設入居者85歳の死体が近隣の水路から発見された。雪荒ぶ現場、容疑者として浮上したのは、施設で働くベトナム人アインである。外国人技能実習生のアインは、神戸の縫製工場働きながら、僅かな収入を母国の家族へ送金する日々を送っていた。劣悪な労働条件に耐えかね失踪。列島を転々として東北にたどり着いた。重篤なガンを患っていた入居者に請われて、自殺を助けたとの自供を始める。これで解決か……。

きみが来た場所

著者名： 喜多川 泰
出版社： ディスカヴァー・トゥエンティワン

会社を辞め、子供たちの生きる力を育てる塾を立ち上げた秀平。家族を支えながらも経営がうまくいかず、不安な毎日を過ごしていた。そんなある日、口に入れると「自分の先祖が体験してきたこと」が夢となってあらわれる「ルーツキャンディ」を手に入れる。秀平は祖父たちの生き様、決意、つないできた命の奇跡を知るなかで、これから自分の子として生まれる新しい命と、塾の子供たちに伝えなければならない大切なことに気づいていく。

カラ売り屋、日本上陸

著者名： 黒木 亮
出版社： KADOKAWA

粉飾決算や株価が過大評価されている企業を探し出し、カラ売りを仕掛けて追及レポートを発表、株価が下がったところで買い戻して利益を上げる投資ファンドを「カラ売り屋」という。ニューヨークに本拠地を置くカラ売り専門投資ファンド、パンゲア&カンパニーは東京事務所を開設。パートナーの北川靖は「タイヤ・キッカー」のトニーと組んで、傘下のMS法人を使って病院買収に邁進する巨大医療グループ、架空売上げの疑いがあるシロアリ駆除会社、タックス・ハイブンを悪用して怪しい絵画取引を行う総合商社絵画部とそれぞれ対決。。

復讐の協奏曲（コンチェルト）

著者名： 中山 七里
出版社： 講談社

三十年前に少女を惨殺した過去を持つ弁護士・御子柴礼司。事務所に〈この国のジャスティス〉と名乗る者の呼びかけに応じた八百人以上からの懲戒請求書が届く。処理に忙殺されるなか事務員の洋子は、外資系コンサルタント・知原と夕食をともに。翌朝、知原は遺体で見つかり、凶器に残った指紋から洋子が殺人容疑で逮捕された。弁護人を引き受けた御子柴は、洋子が自身と同じ地域出身であることを知り……。

銀の夜

著者名： 角田 光代
出版社： 光文社

イラストレーター井出ちづる。夫は若い女と浮気をしている。嫉妬はまるで感じないがそんな自分に戸惑っている。早くに結婚して母となった岡野麻友美。自分ができなかったことを幼い娘に託し、人生を生き直そうとする。帰国子女で独身の草部伊都子。著名翻訳家の母のように非凡に生きたいと必死になるが、何ひとつうまくいかない。三人は女子高時代に少女バンドを組んでメジャーデビューをした。人生のピークは十代だったと懐かしむ。三十代となったこれからの人生に、あれ以上興奮することはあるのだろうか…。

2020年の恋人たち

著者名： 島本 理生
出版社： 中央公論新社

ワインバーを営んでいた母が、突然の事故死。落ち着く間もなく、店を引き継ぐかどうか、前原葵は選択を迫られる。同棲しているのに会話がないう恋人の港、母の店の常連客だった幸村、店を手伝ってもらったことになった松尾、試飲会で知り合った瀬名、そして……。楽しいときもあった。助けられたことも。けどもう、いらぬ。めまぐるしく動く日常と関係性のなかで、葵が選んだものと選ばなかったもの——。直木賞受賞後長篇第一作。

うちの父が運転をやめません

著者名： 垣谷 美雨
出版社： KADOKAWA

「また高齢ドライバーの事故かよ」。猪狩雅志はテレビニュースに目を向けた。そして気づく。「78歳っていえば……」。雅志の父親も同じ歳になるのだ。「うちの親父に限って」とは思うものの、妻の歩美と話しているうちに不安になってきた。それもあって夏に息子の息吹と帰省したとき、父親に運転をやめるよう説得を試みるが、あえなも不首尾に。通販の利用や都会暮らしのトライアル、様々な提案をするがいずれも失敗。そのうち、雅志自身も自分の将来が気になり出して……。

緋の河

著者名： 桜木 紫乃
出版社： 新潮社

男として生まれた。でも、きれいな女の人になりたい。羨みの視線。親も先生も、誰に何を言われても関係ない。カルーセル麻紀さんのことを、いつか絶対に書きたかった、という熱い思いが物語から溢れ出る。

「どうせなるのなら、この世にないものにおなりよ」その言葉が、糧になった。生まれたからには、自分の生きたいように、生きてやる。リスペクトがあるからこそ、想像力のリミッターを解除できた。事実と虚構の化学反応が生み出す、過酷で、美しく、孤独で、切なく、劇的で、潔く、笑えて、泣ける、ザッツ・エンターテインメント!

とわの庭

著者名： 小川 糸
出版社： 新潮社

帰って来ない母を待ち、〈とわ〉は一人で生き延びる。光に守られて、前を向く。暗い淵のなかに身を沈めて仰ぎ見る、透き通った光。「生きていて、すごいことなんだねえ」。歌う鳥たち。草木の香り、庭に降りそそぐ陽射し。虹のように現れる、ささやかな七色の喜び。ちっぽけな私にも、未来、はあるのだ。読み終えると、あたたかな空気が流れます。本屋大賞第2位『ライオンのおやつ』に続く、待望の長編小説。

冬の狩人

著者名： 大沢 在昌
出版社： 幻冬舎

3年前にH県で発生した未解決殺人事件、「冬湖楼事件」。その行方不明だった重要参考人からH県警にメールが届く。新宿署の刑事・佐江による護衛を条件に出頭を約束するというのだ。しかしH県警の調べでは、佐江はすでに辞表を提出している身。そんな所轄違いの刑事を“重参”はなぜ指名したのか？ H県警捜査一課の新米刑事・川村に、佐江の行動確認（こうかく）が命じられた——。筋金入りのマル暴・佐江×愚直な新米デカ・川村。シリーズ屈指の異色タッグが恐るべき陰謀に立ち向かう！ 圧巻のスケールで描ききるノンストップ・エンターテインメント！

ディア・パシエント 絆のカルテ (文庫)

著者名： 南 杏子
出版社： 幻冬舎

病院を「サービス業」と捉える佐々木記念病院で内科医を務める千晶は、日々、押し寄せる患者の診察に追われていた。そんな千晶の前に、嫌がらせを繰り返す患者・座間が現れた。座間はじめ、様々な患者たちのクレームに疲弊していく千晶の心の拠り所は先輩医師の陽子。しかし彼女は、大きな医療訴訟を抱えていて……。現役医師による感動長編。

青い城 (文庫)

著者名： モンゴメリ
出版社： KADOKAWA

内気で陰気な独身女性・ヴァランシー。心臓の持病で余命1年と診断された日から、後悔しない毎日を送ろうと決意するが……周到な伏線と辛口のユーモアに彩られ、夢見る愛の魔法に包まれた究極のロマンス！

おしりたんてい おしりたんていの こい!?

著者名： トロル
出版社： ポプラ社

おしりたんていのじむしょがあるビルの1階のカフェ『ラッキーキャット』に新しくアルバイトの女性ベリーが入った。ベリー目当てのお客さんがたくさん訪れ、お店は大繁盛。おしりたんていは、いつもと違う様子で……! ? 同時収録は『もも色のきょうはくじょう』。大人気シリーズ待望の第10巻!

志麻さん式 定番家族ごはん

著者名： タサン志麻
出版社： 日経BP社

「今日、何つくろう?」の悩みがなくなる! 伝説の家政婦・志麻さんのとっておきレシピ&料理上手になれるワザ ゆるっと覚えて、毎日組み合わせを考えるだけ! 「子育て15年間」を乗り切るおいしい魔法、教えます!